

アニマルハッピー！連続講座第1回 ～飼育下の動物に対する倫理と福祉～

2016.4.24

特定非営利活動法人 地球生物会議(ALIVE)
調査員 藤沢 顕卯



目次

0. はじめに
1. 動物倫理
2. 動物福祉とは？
3. 動物利用について
4. 最後に



0. はじめに

■ 動物に関して守られるべき価値の種類

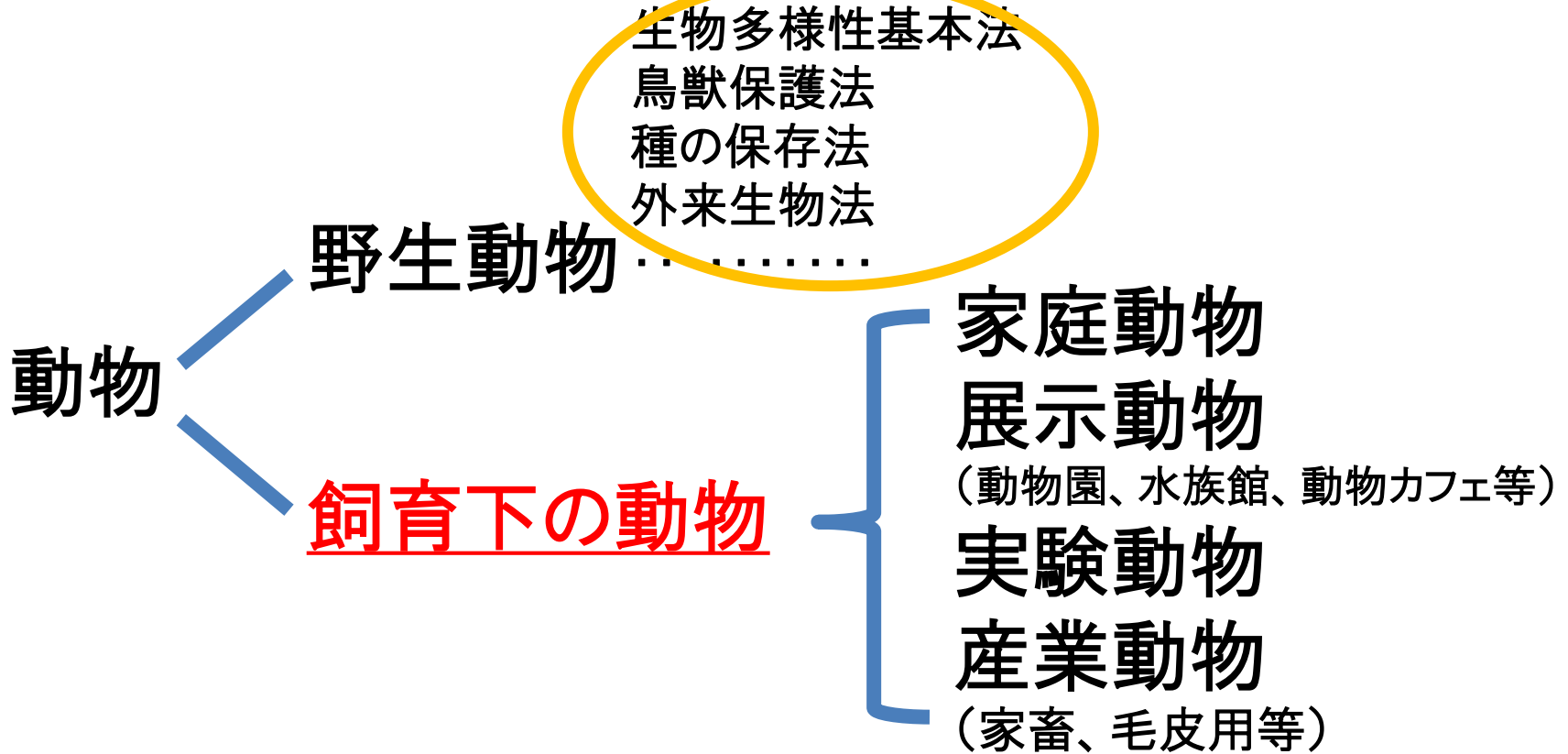
➤ 個体・・・権利、福祉、尊厳(保護)

➤ 種・・・多様性(保存、保全)



0. はじめに

■ 動物の種別 …… 飼育下の動物とは？



動物愛護法



1. 動物倫理



1. 動物倫理

■ 動物に関する倫理(学)

倫理(学)

.....

.....

応用倫理(学) (Applied Ethics)

生命倫理(学) (Bioethics)

環境倫理(学) (Environmental Ethics)

動物倫理(学) (Animal Ethics)

.....

.....



環境倫理の一部として扱われることもある。



1. 動物倫理

■ 生命倫理、環境倫理との主な対象分野の比較

	個 (としての価値)	全体(種) (としての価値)
人間	生命倫理	
自然・動物	<u>動物倫理</u>	環境倫理

※大まかな傾向を示したものであり、
厳密な区分ではありません。



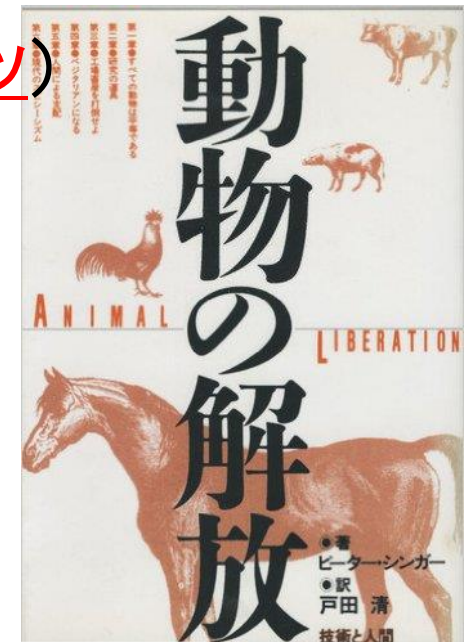
1. 動物倫理

■動物倫理(学)の代表的思想家

- ◆ピーター・シンガー — 動物解放論(種差別 / 功利主義)
 - 利害を有する全ての生物の利害に対して平等な配慮を行い、利害の総和を最大化すべき。
 - 「種の違い」だけを理由に利害を平等に扱わないことは「種差別」である。

- ◆トム・レーガン — 動物権利論(アニマルライツ)
 - 動物は生まれながらにして同等な固有の価値、平等な道徳的権利を持っている。他者の手段として扱われるべきでない。

※シンガーの主張は個体間の利害計算によって、ある個体が他者の手段として扱われたり、それによる不利益を被ることを許容する余地を残す。一方レーガンの主張はそれを認めない。シンガーの主張は動物福祉の考えにもつながる。



ALIVE

All Life in a Viable Environment



1. 動物倫理

■ 旧来の考え方との大きな違い

◆シンガーやレーガンの主張はともに動物を利害や権利の主体(道徳的地位や内在的価値を持つ存在)とみなしている。

◆旧来の伝統的、保守的な考えでは、動物は情けを施す対象ではあっても、利害や権利の主体であるという考え方はされてこなかった。

◆日本の動物愛護法も「国民の間に動物を愛護する気風を招来し、生命尊重、友愛及び平和の情操の涵養に資する」ことを目的としており(法益は「動物愛護の公序良俗の保護」と考えられている)、動物を利害や権利の主体とはみなしていない。



1. 動物倫理

■「種差別」とは？

◆「種差別」は動物倫理における重要なキーワードの1つで、「人種差別」や「性差別」と同一線上に位置づけられる。

◆動物にも利害や権利があり、「種の違い」だけを理由にこれらに配慮しないことは倫理に反する。

◆ヒトも動物も種に関係なく、同じ倫理原則（シンガーの場合は功利主義）に従って扱われるべきという考えで、同じように扱うべきという考え（ex.動物に参政権を与える、動物に義務教育を受けさせる）ではない。



1. 動物倫理

■ 代表的な「利害」と配慮すべき対象(シンガーの議論から)

◆ 苦痛

- 「苦痛」は「害」の代表で、ヒト以外の動物にもみられる。
- シンガーは配慮の対象(苦痛が害となり得る存在)を「感覚」の有無(神経系のヒトとの類似性)を根拠にして脊椎動物 + α とした。

◆ 死

- 「死」も「害」の代表であるが、配慮すべき対象が異なる。
- シンガーは配慮の対象(死が害となり得る存在)を「自意識」の有無を基準としておそらくすべての哺乳類まで含まれるとした。

※なお、シンガーは、自意識を持たない(死が害となり得ない)存在に重度の知的障害者(ヒト)を含め、利害の配慮にあたって、動物がヒトに優先する場面があることを主張し、議論を呼んだ。

1章のまとめ

- ◆ 人が動物をどう扱うべきかを考える動物倫理(学)は応用倫理(学)の一つで、欧米を中心に議論が進んでいる。
- ◆ 動物倫理の代表的な立場では、動物を利害や権利の主体(内在的価値、道徳的地位を持つ)とみなしている。
- ◆ 「種差別」は、ヒトも動物も種に関係なく、同じ倫理原則に従って扱われるべきという考えで、動物倫理の重要なキーワードの1つである。
- ◆ シンガーは、代表的な害として「苦痛」と「死」を分けて考え、「感覚」を持つ生物、「自意識」を持つ生物をそれぞれの配慮対象と考えた。



2. 動物福祉とは？



2. 動物福祉とは？

■元々の語源と主な課題

◆「動物福祉」は欧米発の「アニマル・ウェルフェア(animal welfare)」の訳語。

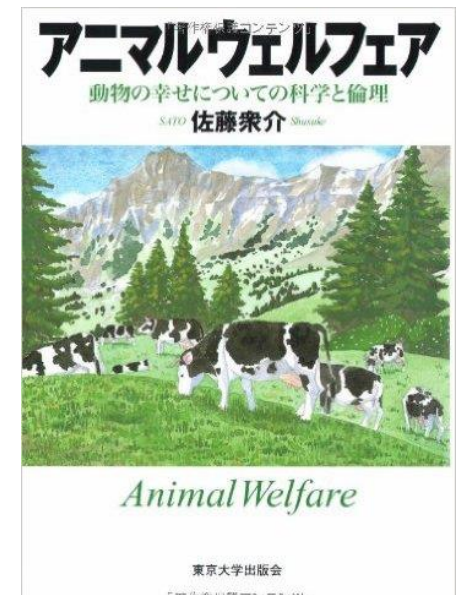
◆welfare

= “wel”(望みに沿って) + “faren”(生活すること)

「よい生活の状態、すなわち健康で、幸福で、安楽な状態」

◆実際のレベルでは、かなり幅広い意味で使われている。

主に飼育下の動物に対して使われ、①苦痛の排除(軽減)や②快適な飼育環境、③動物本来の行動を発現させること、などが重要な課題とされる。



2. 動物福祉とは？

■ OIE(世界動物保健機関 旧・国際獣疫事務局)

動物衛生(健康)を世界レベルで改善するための政府間組織。
1924年に設立され、2014年現在日本を含む180か国が加盟。
以下の6項目を目的とする。

- ①透明性 ー 動物疾病の情報共有
- ②科学的情報 ー 獣医科学情報の収集、分析、広報
- ③国際連帯 ー 動物疾病制御における国際連帯促進
- ④安全衛生 ー 動物及び動物製品の国際貿易のための衛生(健康)基準を作成し、世界の貿易を守る。
- ⑤獣医療サービスの促進 ー 獣医療サービスの法的枠組みとリソースの改善
- ⑥食糧安全と動物福祉 ー 動物由来食品のより良い保証の提供と、科学的アプローチによる動物福祉の促進



2. 動物福祉とは？

■ OIEによる動物福祉の定義

OIEでは、動物福祉を以下のように定義している。

「動物福祉は動物がいかに生活環境に適応しているかを意味する。動物が健康で、快適で、栄養状態が良く、安全で、生来の行動が表現でき、痛み、恐怖、苦悩のような不快な状態に曝されていない場合にその動物は良い福祉状態にある。」

「良い動物福祉には、病気の予防、適切な獣医学的処置、避難場所、管理、栄養、人道的取扱い、そして人道的なと殺/殺処分を必要とする。」

～ OIE陸生動物規約第7節
「動物福祉」より ～


WORLD ORGANISATION
FOR ANIMAL HEALTH

ALIVE

All Life In a Viable Environment



2. 動物福祉とは？

■ 動物福祉の国際スタンダード「5つの自由」とは？

「集約的畜産システムの下にある農用動物の福祉に関する調査のための専門家委員会」(ブランベル委員会)の報告書(1965年)を発端として、イギリス政府の諮問機関である畜産動物福祉審議会(FAWC)によって1992年に現在の形にまとめられたもの。現在では畜産動物だけでなく、すべての動物の福祉基準とみなされてきている。

- ① 飢えと乾きからの自由
- ② 不快からの自由
- ③ 痛み、傷害、病気からの自由
- ④ 正常行動を示す自由
- ⑤ 恐怖と苦悩からの自由



「国際的に認知されている「5つの自由」は動物福祉にとって有効な手引きとなる。」

～ OIE陸生動物規約第7節「動物福祉」より



2. 動物福祉とは？

■ 環境エンリッチメントとは？

- ◆ 環境エンリッチメントは、動物福祉の理念のもと、動物の心理的幸福を実現するために、飼育環境を豊かにする工夫。
- ◆ 具体的には、①生活スペースの改善、②遊具や隠れ場所、家具の設置、③生息自然環境の再現、④他個体との社会性の改善、⑤採食行動の複雑化などがある。
- ◆ 展示動物や実験動物の飼育に際してのテーマとされることが多い。

※コンクリートや金網ケージに囲まれた単純で変化の少ない環境では、動物は常同行動などの異常行動を示すことがある。
(何もない単純で無機質な環境 ⇔ 複雑で変化のある環境)



2. 動物福祉とは？

■ 実験動物福祉の国際スタンダード 3Rsとは？

イギリスの研究者ラッセル(動物学)とバーチ(微生物学)がUFAW(動物福祉のための大学連合)の依頼に応じて1959年に著した「人道的な実験技術の原理」の中で提唱。

◆ Replacement (置き換え)

生きている意識ある高等動物に代えて、生命のない、もしくは意識のない生命体(植物や微生物など)を用いる。

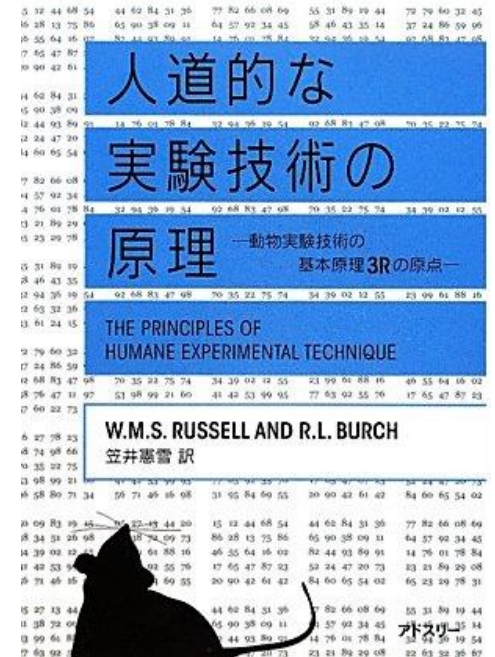
◆ Reduction (使用数削減)

一定の量と正確さを持った情報を得るために用いる動物の数を減らす。

◆ Refinement (手法の洗練・苦痛の軽減)

用いざるを得ない場合には、動物への非人道的手技の発生と過酷さを減少させる。

「国際的に認知されている「3つのR」(動物の使用数の削減、実験方法の洗練、動物を利用しない技術への置き換え)は科学において動物を利用する際の有効な手引きとなる。」 ~ OIE陸生動物規約第7節「動物福祉」より ~



2. 動物福祉とは？

■ 動物福祉の特徴①

- ◆ 「生かすか殺すか」ではなく、生きている間の生活の質（＝取り扱い方）を重視
 - たとえ最終的に殺される動物であっても、命のある間はできる限り質の高い生活（苦痛の排除／快適性など）を保障しなければならないという考え方。
 - 「安楽死（殺）」も動物福祉の重要なテーマの1つ。
 - 日本の動物愛護法では動物は「命あるもの」とされているが、欧州の法律では動物は”sentient beings”（感覚／感受性のある存在）とされている。



2. 動物福祉とは？

■動物福祉の特徴②

◆動物の目線、生理・生態の理解、客観性・科学性を重視

- ヒトの側からみた一方的な価値観に基づくのではなく、あくまで動物自身の幸福や満足を追求する。
- 動物の目線で考えるためには、動物の生理、生態、習性等の理解が不可欠。
- 客観的・科学的根拠も重視され、獣医学や動物行動学の知見が重視される。



2. 動物福祉とは？

■ 動物福祉の特徴③

◆ 現実的

- 人により利用される動物の存在を前提とする。
(動物利用について直接的に賛成・反対を表明するものではないが、人による動物利用を暗黙の前提としている。)
- なお、欧州の動物実験に関する法律では、実験により得られるヒトの利益が動物の苦痛(不利益)よりも大きいことが実験を許可される条件とされているように、功利主義的な側面もあると考えられる。



2. 動物福祉とは？

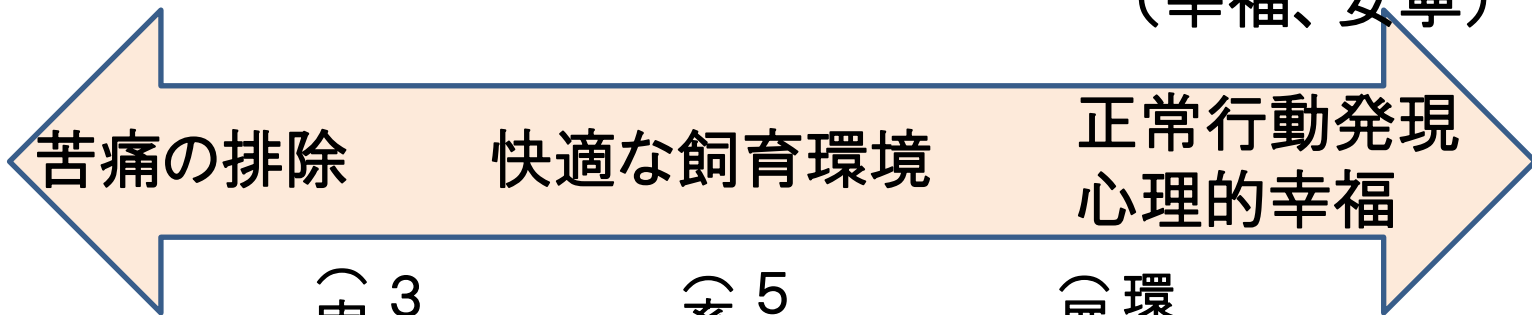
■ 動物福祉の多義的意味

消極的

苦痛の排除(軽減)

積極的

Well-being
(幸福、安寧)



3 R S
(実験動物)

5つの自由
(畜産動物など)

環境エンリッチメント
(展示動物など)



2. 動物福祉とは？

■他の概念との比較

動物愛護	動物福祉	動物の権利
ヒト目線	動物目線	—
情緒的	合理的・客観的	原理的
命の有無を重視	生活の質を重視	命も生活の質も重視
動物利用に対して具体的な対応ができない	動物利用の現場にも適用できる	動物利用を許容しない

※比較のため、単純化しています。



2章のまとめ

- ◆ 動物福祉では、①苦痛の排除(軽減)や②快適な飼育環境、③動物本来の行動を発現させること、などが重要な課題とされる。
- ◆ 動物福祉の特徴には、①生活の質の重視、②客観性・科学性の重視、③現実的などがあり、動物愛護や動物の権利とは異なる。
- ◆ 動物福祉の国際スタンダードには、集約的畜産への反省を端緒にして作られた5つの自由や、動物実験分野における3Rsなどがあり、環境エンリッチメントも重要な要素である。



3. 動物利用について



3. 動物利用について

■動物利用に対する倫理的立ち位置の違い

保守的

ヒトによる動物利用を容認

(狭義の「動物虐待」のみを問題視する立場)

動物福祉的

ヒトによる動物の利用を認めつつも、動物の犠牲と人の利益のバランスを考え、無駄の削減や動物の生活の質の向上を求める

動物権利的

ヒトによる動物利用の廃止(禁止)を求める

(アニマルライツ
/ヴィーガニズム
/abolitionism)



3. 動物利用について

■ 倫理的立ち位置の違いによる具体的主張の例

	動物福祉的立場	動物権利的立場
家庭動物	動物販売業者の規制 (店頭での生体販売禁止)	生体販売の禁止
展示動物	動物展示業者の規制	生体展示の禁止
実験動物	動物実験の規制 エシカル消費	動物実験の禁止 エシカル消費
畜産動物	工場型畜産の廃止 エシカル消費 (動物福祉に配慮した畜産物)	畜産の禁止 ベジタリアン／ヴィーガン (※)になる

※ ベジタリアン・・・肉食をしない人

ヴィーガン・・・卵乳製品を含め、動物性食品を一切摂らない人

なお、海外ではミートフリーマンデーやReducetarianなどの運動もある。



3. 動物利用について

■ エシカル消費(倫理的消費)とは？

環境や人権、社会に配慮した工程・流通過程を通して製造された商品を購入し、そうでない商品を購入しないこと。
購入することが社会問題の解決につながるような消費行動。

イギリスのNPOが発行する雑誌『エシカル・コンシューマー』では、企業格付けシステムの主要カテゴリーとして、「環境」、「動物」、「人権」、「政治」、「持続可能性」の5つを挙げている。

動物に配慮した商品としては、

- ✓ 動物実験をしていない化粧品
- ✓ 動物福祉に配慮した畜産物
- ✓ 動物の毛皮などを使用しない衣類やアクセサリー

などが考えられる。



NOT TESTED ON ANIMALS



RSPCA
ASSURED



ALIVE
All Life In a Viable Environment

3. 動物利用について

■ エシカル消費に関する動物への配慮の例(1)

- ◆ 家庭動物・・・ペットショップから購入せず、行政や愛護団体から譲り受け、里親になる。
- ◆ 展示動物・・・動物福祉や環境エンリッチメントに配慮のない動物園、動物カフェには行かない(手紙を出す)。
- ◆ 実験動物
 - 動物実験をしていない化粧品、洗剤、飲食料他日用品を購入する。
 - 農薬、食品添加物の消費を避け、できるだけ無農薬食品や自然食品を購入する。
- ◆ 畜産動物
 - ケージ飼いの卵でなく平飼い／放し飼いの卵を購入する。
 - 動物福祉に意識のある農家の畜産物を購入する。



3. 動物利用について

■ エシカル消費に関する動物への配慮の例(2)

- ◆ 毛皮、ファッション・・・以下のような製品の購入を避ける。
 - 動物(ミンク、キツネ、タヌキ、ウサギ、羊、ヤギ、犬、猫、アザラシ他野生動物など)の毛皮から作られた製品(コート、襟巻、帽子、手袋など)
 - ワニ、オーストリッチ(ダチョウ)などの革から作られる製品(バッグ、財布、靴、ベルトなど)

- ◆ 野生動物・・・以下のような製品の購入を避ける。
 - 象牙製品(印鑑など)
 - 野生由来のエキゾチックアニマル



3章のまとめ

- ◆ 人による動物利用については、倫理的立ち位置の違いにより様々な立場がある。
- ◆ 保守的な立場(利用容認)と動物権利的立場(利用否定)の中間に動物福祉的立場がある。
- ◆ エシカル消費が世界的に注目されており、動物倫理への配慮はその重要なテーマの1つである。



最後に

- ◆ 現代社会では膨大な数の動物たちを様々な形で利用、飼育しています。
- ◆ これらの動物たちをどう取り扱うべきかは難しい問題です。
- ◆ この問題を根本から考えるのが動物倫理であり、また、現実的・実践的に考える際に有効な概念として動物福祉があります。
- ◆ 動物倫理や動物福祉はすべての人に関わりのある問題です。これらについて考えることは私たちの義務であり、また、私たちの社会を豊かにすることにもつながります。
- ◆ 活動を行う(社会へ主張をする)際は、動物倫理や動物利用に関してどんな立場や考え方があるかを知り、自分がどの立場から何を訴えるかを意識することも大切です。





ご清聴ありがとうございました。
ございました。